

■ 掲示板

■ 第9回（平成21年度）財団法人材料科学技術振興財団
山崎貞一賞候補者募集

1. 授賞対象分野

- (1)「材料」(2)「半導体及び半導体装置」(3)「計測評価」
(4)「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」

2. 授賞対象者：詳細は下記請求先へお問い合わせ下さるか、ホームページをご覧ください。

(1) 授賞対象は、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績を上げている人（複数人も可）とします。

(2) 受賞候補者の国籍は問わず、日本国内において業績をあげた人を授賞対象とします。

(3) 過去に応募されたことのある人でも再応募可能です。

3. 顕彰：各分野それぞれに賞状及び副賞（18金メダル・賞金300万円）を贈呈します。

4. 募集期間：平成21年2月1日から4月末日（必着）

5. 推薦書請求先、提出先：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見 1-18-6

財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局

TEL：03-3415-2200 E-mail：prize@mst.or.jp

FAX：03-3415-5987 URL：http://www.mst.or.jp/prize/

■ 平成21年度後期 高エネルギー加速器研究機構 物質
構造科学研究所 放射光共同利用実験課題公募

募集対象：当施設の放射光および低速陽電子を利用する実験。

主に大学等の研究者を対象としますが、科学研究費補助金の申請資格を有する一部の企業等の基礎研究も対象となります。

応募期限：平成21年5月1日（金）

応募要領：平成20年9月から実験課題申請システムによる申請となりました。

申請受付は平成21年3月末からの予定です。

具体的な申請書作成等に関する詳細については

<http://www.kek.jp/uskek/apply/pf.html> を参照ください。

研究成果は公表していただきます。

予算の範囲内で旅費支給等の便宜供与を行います。

申込、資料請求先：

高エネルギー加速器研究機構 総務部 研究協力課

共同利用支援室 共同利用係

Tel：029-864-5126, e-mail：kyodo1@mail.kek.jp

■ 独立行政法人理化学研究所 平成21年度 准主任研究員の公募について

（物理化学研究所では、以下の要領で准主任研究員を公募します。）

1. 採用予定人数：若干名

2. 募集分野：研究分野は特定しません。応募者自身の自由な発想に基づく国際的視野に立った学際的な研究分野を開拓していた

できます。

3. 応募資格：長期的視野を持つ、次世代の科学技術分野を創成できる自律的研究者で、研究室を主宰するのに十分な能力と研究業績を有する方。

4. 研究室と資金：

(1) 准主任研究員は、主任研究員等とは独立に、研究室を開設し運営します。

(2) 研究室立ち上げのため、初動資金の2000万円（原則）と任期制研究員枠が用意されています。

(3) 所内、所外の様々な競争的研究資金への応募が可能です。

(4) 研究活動への集中とその機動性を確保するため、准主任研究員は、主任研究員に比べて、研究所運営に関わる職務は軽減されています。

5. 待遇等：年俸制（報奨金制度あり）

通勤手当、住宅手当の支給あり。社会保険の適用あり。休日は、土日、祝日、年末年始（12/29-1/3）、当研究所設立記念日。その他、当研究所規程による。日本学生支援機構奨学金免除の対象、科学研究費補助金の申請資格有り。

6. 勤務形態：常勤、60歳定年。勤務地は原則として和光研究所又は播磨研究所。

7. 着任時期：原則、平成22年4月1日

8. 選考方法：書類審査による一次選考の後、平成21年8月上旬頃に面接セミナーを行う。

選考の結果は可否に関わらず通知する。審査内容、選考結果に関する個別の問合せは受け付けません。

9. 応募締切日：平成21年5月15日（金）17時（日本時間）必着

書類提出は郵送もしくは直接持参に限定。郵送の場合は必ず書留とする。E-mail, fax での申請の他、書類不備や締切後の申請は受け付けません。

10. 応募様式・その他：詳細はHPを参照して下さい。

http://www.riken.jp/r-world/info/recruit/index_k.html

11. 問合せ・応募先：独立行政法人理化学研究所

基礎基盤研究推進部 研究人事課 准主任研究員担当

〒351-0198 埼玉県和光市広沢2番1号

E-mail：riken-acs@riken.jp

電話による問い合わせは受け付けません。

[個人情報取扱について] 提出頂いた書類は、独立行政法人理化学研究所個人情報保護規程に則り厳重に管理し、採用審査の用途に限り使用され、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ない。

■ 平成22年度基礎科学特別研究員の公募について

独立行政法人理化学研究所（以下「理研」という。）は、理研において自由な発想で主体性を持って基礎研究を強力に推進する若手研究者を、平成22年度の基礎科学特別研究員として募集します。

1. 採用予定人数：40名程度
2. 受入機関：独立行政法人理化学研究所
3. 募集分野：物理学，化学，生物科学，医科学，工学の科学技術分野で，当研究所の研究領域に関連性を有するもの。
4. 応募資格：
 - (1) 研究計画に基づき，その研究を主体的に遂行する意志のある者。
 - (2) 原則として平成15年度以降に自然科学の博士号を取得した若手研究者（平成22年3月31日までに取得見込の者を含む）。
 - (3) 日本国に永住権を持つ者。または，日本国の大学院博士課程を修了（見込みを含む）し，博士号を取得（見込みを含む）の者。
5. 待遇等：（平成20年度実績）
 - ① 謝金一月額487,000円（社会保険料，税込）
 - ② 通勤費—実費（上限45,000円/月）
 - ③ 住宅費—家賃の一部支給
 - ④ 研究費—1,000,000円/年
6. 契約期間：
 - ① 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで。
 - ② 契約更新については，当該年度の契約終了前の所要の評価により，平成25年3月31日まで可能。
7. 応募締切日：平成21年5月29日（金）。
 応募希望の方は，受入研究室へ連絡する際に参考となる資料を送付いたしますので，平成21年5月15日（金）までに，必ずE-mailで連絡して下さい。
8. お問い合わせ先：独立行政法人 理化学研究所
 基礎基盤研究推進部 研究人事課（展示事務棟3階）
 基礎科学特別研究員担当
 〒351-0198 埼玉県和光市広沢2番1号
 FAX：048-463-3687
 E-mail：wakate@riken.jp
 http://www.riken.jp
9. その他：研究所予算の成立を前提としており，事情により変更があり得ます。
 応募資格について改定されている点があるので，募集要項を十分に確認した上で，応募を行ってください。

■独立行政法人理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター 利用システム開発研究部門 基盤研究部 生命系放射光利用システム開発ユニット 研究員または技師 募集

【募集研究室】 基盤研究部 生命系放射光利用システム開発ユニット（部長：山本雅貴）

【研究室の概要】 基盤研究部は，SPring-8の放射光を最大限に活用するための先端利用技術の開発・高度化・汎用化を推進し，将来的にはX線自由電子レーザー利用施設も含めた，研究基盤の運営と普及を担当しています。生命系放射光利用システム開発ユニットは，SPring-8の理研ビームライン群の中でも構造生物系ビームラインの開発・維持・管理や，ビームラインを利用して実施される生命科学研究においてユーザへの技術支援を行い，放射光利用に係る諸技術の開発とレベルアップに責任を持ちます。

【募集職種，募集人数及び職務内容】

募集職種：研究員または技師

募集人数：1名

職務内容：SPring-8理研ビームラインにおいて，生体高分子の結晶構造解析を中心としたビームライン利用技術の開発研究と，ビームラインを利用した研究の支援を行います。前者では，主に微小結晶や超分子複合体結晶等の難結晶構造解析を対象とした放射光ビームライン利用技術の研究開発を担当していただきます。

【応募資格】

- ・博士号取得者又は同等の能力を持つ者
- ・研究員として応募される方は1年以上の海外研究歴を有することが望ましい
- ・放射光科学に関連する研究分野で，実験装置の研究・技術開発に従事した経験を有することが望ましい

【勤務地】

独立行政法人理化学研究所 播磨研究所
 〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

【待遇】

定年制職員（60歳定年）。但し，採用時の審査結果によっては5年間の任期制職員として採用され，3年終了後に定年制移行審査を受けることになる。任期制職員として雇用される場合の年収・勤務条件は定年制職員に準じる。
 年俸制（規程に基づき諸手当支給）社会保険の適用有り。
 休日は，土日，祝日，年末年始（12/29-1/3），当研究所設立記念日。

その他，当研究所規程による。

日本学生支援機構奨学金（平成15年度までに大学院第一種奨学生に採用されている場合）の返還特別免除の対象職。科学研究費補助金の申請資格有り。

【応募方法及び締切日】

[提出書類]

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧
- (3) 主要論文の別刷り（3部，コピー可）
- (4) 現職の所属長を含む推薦状2通（内，最低1通は外国人からのものとする）
 （現職の所属長から推薦状をもらうのが困難な場合は，第3者による推薦書）
- (5) これまでに獲得した外部資金リスト（書式フリー）
- (6) これまでの研究・技術開発内容と今後の研究・技術開発に対する抱負（書式フリー3ページ以内）

[締切日] 平成21年6月10日 必着

※提出して頂いた書類は，独立行政法人理化学研究所個人情報保護規程に則り厳重に管理し，採用審査の用途に限り使用されます。これらの個人情報には正当な理由なく第三者への開示，譲渡及び貸与することは一切ありません。

※お送り頂いた履歴書は返却致しませんので，ご了承下さい。

【選考方法】

書類選考後，面接を行う。

【着任時期】

平成21年10月1日

【問合せ・書類送付先】

〈担当推進部で受け付け〉

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

独立行政法人理化学研究所 基礎基盤研究推進部 研究人事課

メール：rps-saiyo（この後に“@riken.jp”を追加して下さい）
簡易書留または書留で送付すること。

封筒に、「基盤研究部 研究員もしくは技師 応募書類在中」と朱書きすること。

■ 会告

■ 第13回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2008年9月8日開催の学術等選考委員会の選考結果として、3名が推薦された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

その結果を受け、第80回評議員会にて第13回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第22回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

- ・唯美津木（分子科学研究所 物質分子科学研究領域 電子構造部門）

「in-situ 時間分解 XAFS 法を駆使した触媒化学の革新」

唯美津木氏は、「最も困難な10の触媒反応」の一つに挙げられる、酸素分子を用いたベンゼン直接酸化によるフェノール合成を、高活性・高選択的に実現する新型担持レニウム触媒を開発した。この反応を継続的に進行させるためにはアンモニアが必要とされるが、XAFS法を用いて触媒反応中における触媒活性種の構造変化やアンモニア分子の果たす役割を分子レベルで解明した。In-situ 条件下における時分割リアルタイム dispersive XAFS 実験では、Re10核クラスターが酸素と反応する過程において、準安定な中間化学種が存在しないことが、触媒反応における高活性、高選択性の要因であることを示した。また、time-gating Quick XAFS法を開発して、実燃料電池の作動条件下におけるカーボン担持白金ナノ粒子カソード触媒の酸化還元挙動を1秒の時間分解能で捉え、リアルタイム dispersive XAFS法では4msのリアルタイム計測を実現し、同時に起こると考えられてきた電気化学反応と白金触媒の構造変化の間に明確な時間差が存在する新しい現象を見出した。さらに異常電圧を印加した時の白金の溶出過程の解明にも貢献した。

以上のように、種々の in-situ 時間分解 XAFS 法を駆使して行われた研究は触媒化学研究のみならず、化学反応全般に新たな展開を付与するものであり、唯美津木氏の放射光科学における功績は大きく、日本放射光学会奨励賞に十分に値するものであり、今後の一層の発展を期待するものである。

- ・原田健太郎（高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光源研究系）

「パルス四極電磁石を用いた新しい入射方式の提案と実証」

原田健太郎氏は、電子蓄積リングでの電子ビーム入射方式として、パルス四極電磁石を用いた新しい入射方式を提案し、実機放射光リングでその有用性を実証した。従来の電子蓄積リングへのビーム入射は、複数台のパルス偏向電磁石を用いるバンブ軌道入射方式となっており、トップアップ運転は所定の場所以外に軌道のずれが生じない精密なバンブ形成を成し遂げて可能となっている。一方、原田氏が提案した方式では、四極電磁石の中心を通る既に入射され蓄積されているビームには影響を与えずに、入射

ビームを同磁石の周辺に通すことによりその収束力を用いて蓄積ビームのまわりに導くことができる。原田氏は、電磁石システムの適切な設置場所およびパラメータをシミュレーションにより見出し、世界的にも例のないマイクロ秒パルス動作を行う四極電磁石・励磁電源・セラミックチャンパーの開発、磁場測定などの性能試験を行った。PF-ARへこれらのシステムを設置し、ビーム入射・蓄積に成功した。この方式により、入射システムを小型化することができ、今後放射光利用にとって標準的運転となるトップアップ運転への既設施設の対応を容易とすることが期待される。さらに、今まで難しかった小型放射光施設でのトップアップ運転の実現に道を開くものである。

以上のように、パルス四極電磁石を用いた新しい入射方式の提案と実証を行った原田健太郎氏の放射光科学における研究功績は大きく、日本放射光学会奨励賞に十分に値するものであり、今後の一層の発展を期待するものである。

- ・三村秀和（大阪大学 大学院工学系研究科 精密科学・応用物理学専攻）

「放射光用高精度 X 線ミラーの製作とナノビーム応用」

三村秀和氏は放射光用高精度 X 線ミラーの製作と応用において、EEM (Elastic Emission Machining) 法を用いた超精密加工法の開発、スペckルのない X 線ミラーの開発、X 線回折限界を目指した X 線ナノ集光ミラーの開発などに大きな成果を上げている。

高輝度放射光 X 線を扱う光学系は各国で精力的に研究されているが、三村氏は超高精度ミラー作製において、EEM 法が X 線の散乱を極限まで低減可能な超平滑表面創成法であることを実証するとともに、装置に改良を加えることにより実用的な X 線ミラーが作製可能なレベルまで完成度を高めた。また反射ビームに含まれるスペckルの理論的解析を行い、ナノスケールの凹凸形状補正を行う新しい計測法（マイクロステッチング形状計測法）と EEM 加工手法を開発し、初めてスペckルの無いミラーを完成させた。またこれらの技術を用いて世界初のミラーによる X 線回折限界集光を実現し、また製作した大開口数のミラーを用いて2007年の時点でビーム幅25nmを得ており、世界的なナノビーム開発競争の先端に位置している。更に、次の目標とされている分解能10nm顕微鏡システムの開発やXFEL用の長尺ミラーの開発などを現在進めている。

以上のように、放射光用高精度 X 線ミラーの製作と応用における三村秀和氏の研究業績は大きく、日本放射光学会奨励賞に十分に値するものであり、今後の一層の発展を期待するものである。

■ 日本放射光学会第81回評議員会議事録

日 時：2009年1月9日（金） 12：00～13：00

場 所：東京大学理学部1号館 第4会議室

出席者：朝倉清高，足立伸一，雨宮健太，安藤正海，飯田厚夫，大橋治彦，柿崎明人，籠島 靖，加藤政博，鎌田雅夫，河田 洋，木下豊彦，坂田 誠，佐々木聡，澤 博（会計幹事），大門 寛，高田昌樹，竹田美和，谷口雅樹，中井 泉，中川和道，並河一道（議長），野村昌治，柳下 明，山本雅貴（行事幹事），横山利彦，若槻壮市，渡辺 巖，渡邊信久 各評議員
雨宮慶幸（会長），櫻井吉晴（編集幹事），繁政英治（渉外幹事），百生 敦（庶務幹事）

欠席者：北村英男

事務局：佐藤亜己奈（WORDS），西野三和子（WORDS）

〈審議事項〉

- 2008年度決算案・2009年度予算案
澤会計幹事より，2008年度決算報告および2009年度予算案の説明があり，これを承認した。
- 会員の入退会状況
百生庶務幹事より，第80回評議員会以降の入退会申請者に関して，入会：正会員29名（うち学生会員21名）の報告があり，これを承認した。退会に関して，退会：正会員9名（うち学生会員0名）を確認した。また，会費3年間未納のための自動退会者38名については，本人にその旨を通知したことを確認し，承認した。2009年1月9日現在の総会員数は1,271名（うち学生会員123名），賛助会員49社（51口）。
- 基礎講習会企画案
山本行事幹事より，他分野の研究者やこれから放射光を使い始める学生・社会人に向けて，本学会主催，各放射光施設と各種懇談会の共催（共同主催）で，8月下旬に2日間，東京（東大講義室（予定））で基礎講習会を開催することが提案され，これを承認した。参加費は，放射光の原理から利用研究の基礎を分かりやすく解説したテキスト代（1,000円程度）のみとする。
- 若手研究会企画案
山本行事幹事より，若手会員（40歳以下）が中心となって企画する研究会の公募制度について提案があった。放射光研究の将来を議論する研究会，複数の研究室・研究グループまたは施設が共同で開催する研究会を想定し，開催費用の補助は50万円まで，参加想定人数は30名以上，募集締切（企画書提出）は2009年3月末とする。開催時期は2009年夏（予定）とする。出席評議員より，公募手順に関する種々の意見があったが，本会議での議論を踏まえて公募要領をWebで公表することとし，これを承認した。
- 定款改訂（評議員の再任を妨げる期間について）
雨宮会長より，現行定款では任期（2年）を終了した評議員は2年間再任できないことになっているが，学会運営への貢献が大きい多くの会員の関与が2年間も途絶えてしまうことは，むしろ学会活動にとって損失であるので，再任を妨げる期間を2年から1年に改訂する定款改訂（案）が提出された。議論の結果，定款第22条の改定を承認し，総会に諮ることとなった。
- 共同利用・共同研究拠点の活動支援について
文部科学省が検討している各大学の附置研究所（既に全国共

同利用化されている研究所を含む）の共同利用・共同研究拠点としての認定制度について，その認定基準のひとつとして，多くの関連研究者からの支持があることが挙げられている。本学会にも6団体から活動支援依頼があったことが雨宮会長より報告された。これに対応するために，本学会の支援基準（案）

下記のいずれかを満たす団体から当該支援依頼があった場合に支援する。

- 日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム組織委員会の一員であること。
- 依頼元団体に放射光学会員が10名以上在籍すること。が提案され，これを承認した。
7. 会員メーリングリスト利用規程（案）
会員メーリングリスト利用規程（案）が提案され，これを承認した。
8. 協賛・後援について
繁政渉外幹事より本学会に対する協賛・後援依頼について報告があり，共催1件，協賛4件，後援2件を承認した。

〈報告事項〉

時間の制限により，下記報告を机上配布資料により行った。

- 第22回，23回年会・合同シンポ準備状況
第22回年会・合同シンポ（JSR09）のプログラムについて説明があり，1月9日（金）17：10-17：50にH. Winick氏に20周年記念の特別講演が加わった。
発表件数，登録者数，企業展示出展社数などは前回を超える見込みであること，および学生発表賞の審査手順に関する説明があった。また，第23回年会・合同シンポ（JSR10）は2010年1月6日（水）～9日（土），イーグレひめじ（姫路市）で開催する予定である。
- 20周年記念事業準備状況
- AOFSRR 報告
The 3rd AOFSRR Workshop in Melbourne, Australia, Dec. 4-5, 2008
4th AOFSRR (Shanghai in 2009), 5th AOFSRR (Korea in 2010), 2009年11月にSpring-8で開催するCheiron School。
- 単行本出版
「放射光ビームライン光学技術入門～はじめて放射光を使う利用者のために～」の予約販売が2008年12月末で終了し，第22回年会・合同シンポ会場で販売中。本の売上収入と印刷代等の支出については十分なバランスが取れている。
- 評議員会日程の確認
第82回評議員会 2009年4月4日（土） 14：00-16：00
場所：理研東京連絡事務所 会議室
第83回評議員会 2009年7月11日（土） 14：00-16：00
場所：理研東京連絡事務所 会議室

■第22回（2009年）日本放射光学会総会議事録

日 時：2009年1月9日（金） 15：00～16：00

場 所：東京大学本郷キャンパス 小柴ホール

出席者：出席者：55名 委任状：96名 計：151名

定款第28条により，正会員の1/10（127名）以上の参加で総会は成立。

(議事)

1. 議長選出
議長に並河一道会員を選出した。
2. 2009年度会長挨拶
両宮会長より挨拶があり、2009年度の活動方針について所信表明があった。
3. 2008年度事業報告
百生庶務幹事より2008年度の学会活動について報告があった。
4. 2009年度事業計画・2009年度学会組織
百生庶務幹事より2009年度の実業計画および2009年度の学会組織(会長、幹事、評議員、各委員会)について報告があった。
5. 2009年度行事活動方針
山本行事幹事より2009年度の行事活動方針について報告があった。年会・合同シンポ、放射光基礎講習会、若手研究会を開催予定。
6. 2009年度渉外活動方針
繁政渉外幹事より2009年度の渉外活動方針について報告があった。
7. 2009年度編集方針
櫻井編集幹事より2009年度の編集方針について報告があった。
8. 第13回学会奨励賞
下記の3名を第13回学会奨励賞の受賞者として決定した旨の報告があった。
唯美津木(分子研)「in-situ 時間分解 XAFS 法を駆使した触媒化学の革新」
原田健太郎(KEK-PF)「パルス四極電磁石を用いた新しい入射方式の提案と実証」
三村秀和(阪大)「放射光用高精度 X 線ミラーの製作とナノビーム応用」
9. JSR09・創立20周年記念式典について
百生庶務幹事より第22回年会・合同シンポ(JSR09)、創立20周年記念式典について説明があった。また、第23回年会・合同シンポ(JSR10)は2010年1月6日(水)~9日(土)、イーグレひめじ(姫路市)で開催する予定である。
10. AOFSSRR について
高田評議員より、2008年9月29日-10月8日にSPring-8で行われた2nd AOFSSRR Summer School (Cheiron School 2008)、2008年12月4日-5日にメルボルンで開催された3rd AOFSSRR Workshop について報告があった。
11. 2008年度決算報告
澤会計幹事より2008年度の決算報告があり、承認した。
12. 2009年度予算案
澤会計幹事より2009年度予算案が示され、承認した。
13. 定款改訂(評議員の再任を妨げる期間について)
両宮会長より、現行定款では任期(2年)を終了した評議員は2年間再任できないことになっているが、学会運営への貢献が大きい多くの会員の関与が2年間も途絶えてしまうことは、むしろ学会活動にとって損失であるので、再任を妨げる期間を2年から1年に改訂する定款改訂(案)が提出

され、審議の結果これを承認した。

(改訂前)	
定款 第3章、第22条	会長の任期は2年とし、再任することはできない。幹事の任期は2年とし、再任を妨げない。評議員の任期は2年とし、毎年その半数が改選される。ただし、2年を経ずして再任することはできない。会長、評議員および幹事の任期は、10月1日に始まる。
(改訂後)	
定款 第3章、第22条	会長の任期は2年とし、再任することはできない。幹事の任期は2年とし、再任を妨げない。評議員の任期は2年とし、毎年その半数が改選される。ただし、1年を経ずして再任することはできない。会長、評議員および幹事の任期は、10月1日に始まる。

■会員異動

第81回評議員会(2009年1月9日)で承認

《正会員入会》

- 本村 幸治 独立行政法人 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 量子放射科 放射線標準研究室
山本 勇 分子科学研究所
藤田 雅弘 理化学研究所前田バイオ工学研究室
安保 充 東京大学大学院農学生命科学研究科、応用生命科学専攻、分析化学研究室
長谷川孝行 合同会社シンクロトロンアナリシス LLC
長谷川和也 勸高輝度光科学研究センター 利用研究促進部門 構造生物グループ
上原 雅人 産業技術総合研究所
野田 健治 勸高輝度光科学研究センター

以上8名

《学生会員入会》

- 今津亜季子 神戸大学
飯塚 拓也 極端紫外光研究施設
大山 隆啓 関西学院大学 理工学研究科 高橋功研究室
三本 晶 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 中川研究室
藤田 泰輔 広島大学大学院理学研究科光物性研究室
南方 千晴 大阪府立大学大学院 理学系研究科
羽野 弘子 大阪府立大学 大学院理学系研究科 物理科学専攻 構造物性研究室
東方田悟司 広島大学大学院、理学研究科 光物性研究室
坂本 勇太 東京大学新領域創成科学研究科
小池 雅史 名古屋大学工学研究科マテリアル理工学専攻加藤高嶋研
鈴木 康宏 名古屋大学大学院工学研究科
須田山貴亮 東京大学大学院、理学系研究科物理学専攻、溝川研究室
脇坂 祐輝 東京大学大学院理学系研究科 物理学専攻 溝川研究室
新井 秀実 東京大学

高山 裕貴 慶應義塾大学大学院 理工学研究科 基礎理工学
専攻 物理学専修 中迫研究室

児玉 渉 慶應義塾大学理工学部物理学科中迫研究室

吉田 光宏 名古屋大学 工学研究科 加藤・高嶋研究室

中島 陽祐 広島大学大学院理学研究科物理科学専攻光物性研
究室

山添 康介 東京大学大学院, 新領域創成科学研究科, 物質系
専攻, 雨宮研究室

山下恵太郎 北海道大学大学院生命科学院

森田 秀利 山形大学大学院理工学研究科

以上21名

《退会会員》

正会員44名, 学生会員 3名

《会員数》

会員1271名 (内学生123名) 賛助会員49社 (51口)

日本放射光学会2008年度決算書

自 2007年10月 1 日 至 2008年 9 月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入	8,151,000	10,987,600
	学生会員会費収入	245,000	
	賛助会員会費収入	2,195,000	
	購読会員会費収入	396,600	
会誌収入	会誌広告収入	3,154,232	4,432,224
	会誌販売収入	50,793	
	別刷収入	1,227,199	
年会・合同シンポ収入			10,194,850
受取利息			2,454
収入の部合計			25,617,128

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費	8,773,369	9,736,403
	発送手数料・郵送料	963,034	
	特集記事単行本化		
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		146,190
年会・合同シンポ支出	開催費	6,754,435	8,613,695
	委員会旅費	789,610	
	事務管理費	1,069,650	
事業費	会議費（旅費・会場費）	1,178,779	2,014,257
	通信費	513,688	
	印刷費	263,440	
	事務局交通費	58,350	
管理費	事務用品費	73,500	1,096,939
	消耗品費	147,697	
	選挙開票アルバイト	40,000	
	運賃（宅急便+メール便）	654,484	
	その他管理費	178,758	
	租税公課	2,500	
事務委託費	ホームページ維持費	273,000	1,697,357
	Web 会員名簿維持費	182,700	
	会員業務費	582,120	
	庶務業務費	659,537	
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
支出の部合計			23,769,841

3. 収支計算の部

当期収支差額			1,847,287
前期繰越金			8,623,581
次期繰越金	次期繰越金		10,470,868
	20周年記念事業（学会補助金含む）		(1,000,000)

2008年度資産負債明細

2008年9月30日現在

1. 資産の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
1. 現金及び預金	手持現金残高 郵便振替残高 UFJ銀行普通預金残高 三井住友銀行普通預金残高	1,097,462 2,924,049 2,502,400 5,157,054	11,680,965
2. 会費未収金	正会員会費未収残高 学生会員会費未収残高 賛助会員会費未収残高 購読会員会費未収残高 会誌販売未収残高	1,116,000 139,500 70,000 320,000 370,200	2,015,700
3. 広告費未収金			637,768
4. 立替金	第21回年会・合同シンポ(旅費など)		1,212,324
5. 学会誌在庫金	学会誌(創刊号-Vol. 21, No. 5) 3,160冊		3,476,000
6. 電話加入権			70,000
7. 什器備品(償却済み) 会長用FAX償却累計			14,111 268,109
資産の部合計			19,106,868

2. 負債の部

科 目	細 目	金	額
1. 会費前受金	正会員会費 学生会員会費 賛助会員会費	5,432,000 54,000 2,150,000	7,636,000
2. 預り金	20周年記念事業共催金(理研・KEK)		1,000,000
負債の部合計			8,636,000

3. 剰余金の部

科 目	細 目	金	額
1. 前期繰越金			8,623,581
2. 当期収支差額			1,847,287
剰余金の部合計			10,470,868

日本放射光学会2009年度予算書

自 2008年10月 1 日 至 2009年 9 月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入	9,408,000	12,603,000
	学生会員会費収入	240,000	
	賛助会員会費収入	2,550,000	
	購読会員会費収入	405,000	
会誌収入	会誌広告収入	3,200,000	4,600,000
	会誌販売収入	100,000	
	別刷収入	1,300,000	
年会・合同シンポ収入			9,997,450
創立20周年記念事業	理研/JASRI/SPring-8 共催金	1,000,000	1,500,000
	物質構造科学研究所共催金	500,000	
単行本出版収入	販売収入		849,900
受取利息			
収入の部合計			29,550,350

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費	9,000,000	10,668,600
	発送手数料・郵送料	1,000,000	
	単行本出版費	668,600	
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		146,190
年会・合同シンポ支出	開催費	7,081,671	8,940,931
	委員会旅費	789,610	
	事務管理費	1,069,650	
行事開催費	創立20周年記念事業補助金	1,000,000	3,500,000
	創立20周年記念事業開催費	1,500,000	
	基礎講習会開催費	500,000	
	若手研究会開催費	500,000	
事業費	会議費	1,200,000	2,110,000
	通信費	550,000	
	印刷費	300,000	
	事務局交通費	60,000	
管理費	事務用品費	100,000	1,192,500
	消耗品費	150,000	
	給料手当 (選挙開票アルバイト)	40,000	
	運賃 (宅急便+メール便)	700,000	
	支払手数料	200,000	
	租税公課	2,500	
ワーズ事務委託費	ホームページ維持費	300,000	1,800,000
	Web 会員名簿維持費	200,000	
	会員業務費	600,000	
	庶務業務費	700,000	
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
支出の部合計			28,823,221
当期収支差額			727,129
前期繰越金			9,470,868
次期繰越金	次期繰越金		10,197,997

日本放射光学会2009年度組織

■会長（任期：2007.1.1-2009.9.30）

雨宮 慶幸（東大）

■幹事（任期：2007.1.1-2009.9.30）

庶務幹事 百生 敦（東大）

行事幹事 山本 雅貴（理研）

編集幹事 櫻井 吉晴（JASRI）

渉外幹事 繁政 英治（分子研）

会計幹事 澤 博（名大）

■評議員

（任期：2007.1.1-2009.9.30）

朝倉 清高（北大）

安藤 正海（東理大）

飯田 厚夫（KEK）

大橋 治彦（JASRI）

籠島 靖（兵庫県立大）

加藤 政博（分子研）

鎌田 雅夫（佐賀大）

佐々木 聡（東工大）

澤 博（KEK）

高田 昌樹（JASRI）

竹田 美和（名大）

大門 寛（奈良先端大）

並河 一道（学芸大）

柳下 明（KEK）

若槻 壮市（KEK）

（任期：2008.10.1-2010.9.30）

足立 伸一（KEK）

雨宮 健太（KEK）

柿崎 明人（東大）

河田 洋（KEK）

北村 英男（理研）

木下 豊彦（JASRI）

坂田 誠（JASRI）

谷口 雅樹（広大）

中井 泉（東京理科大）

中川 和道（神戸大）

野村 昌治（KEK）

山本 雅貴（理研）

横山 利彦（分子研）

渡辺 巖（立命館大）

渡邊 信久（名大）

■行事委員（任期：2007.1.1-2009.9.30）

山本 雅貴（理研） 委員長

五十嵐教之（KEK）

岡島 敏浩（佐賀 LS）

木村 真一（分子研）

木村 洋昭（JASRI）

佐藤 仁（広大）

田中 均（理研）

難波 秀利（立命館大）

羽島 良一（原子力機構）

堀場 弘司（東大）

松田 巖（東大）

■渉外委員（任期：2007.1.1-2009.9.30）

繁政 英治（分子研） 委員長

■編集委員

（任期：2007.1.1-2009.9.30）

櫻井 吉晴（JASRI） 委員長

足立 伸一（KEK）

石井 賢司（原子力機構）

上田 和浩（日立）

宇留賀朋哉（JASRI）

大橋 治彦（JASRI）

岸本 俊二（KEK）

熊坂 崇（JASRI）

隅谷 和嗣（佐賀 LS）

田中 義人（理研）

津坂 佳幸（兵庫県立大）

初井 宇記（理研）

平野 馨一（KEK）

松垣 直宏（KEK）

松田 巖（東大）

（任期：2008.10.1-2010.9.30）

岡 俊彦（静岡大）

小林 幸則（KEK）

組頭 広志（東大）

玉作 賢治（理研）

田村 和宏（JASRI）

彦坂 泰正（分子研）

若林 裕助（KEK）

■20周年記念事業企画委員

雨宮 慶幸（東大；会長） 委員長

百生 敦（東大；庶務幹事）

澤 博（名大；会計幹事）

繁政 英治（分子研；渉外幹事）

下村 理（KEK）

若槻 壮市（KEK）

寿栄松宏仁（理研）

高田 昌樹（JASRI）

小杉 信博（分子研）

太田 俊明（立命館大）

谷口 雅樹（広大）

村上 洋一（東北大）

尾嶋 正治（東大）

神谷 幸秀（KEK）

■2009年度の主な事業計画

- 第3回 AOFSSR (オーストラリア, 2008.12.4-5)
- 第22回総会
2009年1月9日 (於: 東京大学・本郷キャンパス)
- 第22回年会・放射光科学合同シンポジウム
2009年1月9日-12日 (於: 東京大学・本郷キャンパス)
- 第13回学会奨励賞授与
2009年1月9日 (於: 第22回総会)
- 創立20周年記念シンポジウム・式典
2009年1月10日 (於: 東京大学・本郷キャンパス 安田講堂)
- 放射光基礎講習会
2009年夏季開催予定
- 若手研究会公募
- 評議員会 (10月, 1月, 4月, 7月)
2009年度第1回 (通算80回) 評議員会
2008年10月18日 (於: 理化学研究所 東京連絡事務所 会議室)
- 幹事会 (10月, 12月, 3月, 6月)
2009年度第1回幹事会

- 2008年10月4日 (於: 理化学研究所 東京連絡事務所 会議室)
- 行事委員会 (年1回開催)
2009年度第1回行事委員会
2009年1月12日 (於: 東京大学・本郷キャンパス)
- 編集委員会 (年3回)
2009年度第1回 (通算84回) 編集委員会
2008年11月27日 (於: 理化学研究所 東京連絡事務所 小会議室)
- 第14回学会奨励賞受賞候補者選定会議
- 次期会長・評議員選挙
- 学会誌の定期発行 (年6回)
Vol. 21, No. 6/2008年11月末発行
Vol. 22, No. 1/2009年1月末発行
Vol. 22, No. 2/2009年3月末発行
Vol. 22, No. 3/2009年5月末発行
Vol. 22, No. 4/2009年7月末発行
Vol. 22, No. 5/2009年9月末発行
- 第23回年会・放射光科学合同シンポジウム (2009年1月イーグレひめじ) 準備

一口メモ

ワスレナグサ

ムラサキ科の多年草で、ヨーロッパが原産である。英名は“Forget-me-not”で、その名のとおり恋人に贈る花として欧米では愛されている。日本では主に花壇や鉢植えなどで園芸観賞用として栽培されている。茎は上へ上へと伸び、約30 cm程度となり、巻尾状の花穂をなして藍色の小さな花を多数つける。苗を入手したら庭に植え、水をたくさん与えると花は長持ちする。

本年はイタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイがレンズを使っての手作りの20倍の望遠鏡(ガリレオ望遠鏡)で、月を覗き、その表面には山と谷、さらにはクレーターを発見した1609年から400年を経過しました。そのために、国連と国際天文学連合は今年を“世界天文年”と決めています。彼はその後、地動説を決定づける天文学の3大発見をしました。しかし、その考えは当時のカトリックの教義に反するとして、宗教裁判で有罪となり、自宅軟禁され亡くなりました。彼の死後350年後の1992年になって、ようやくヨハネ・パウロ2世から破門が解かれ、名誉が回復されました。澄んだ夜空を簡単な望遠鏡で眺めると、ガリレオが発見した木星にある大きな4つの衛星(ガリレオ衛星)が見えることでしょう。(No. 86, K. Ohshima)



■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2009年 5/22	第3回講習会「X線反射率による薄膜・多層膜の解析」	物質・材料研究機構 千現地区	(株)応用物理学会 埋もれた界面のX線・中性子解析研究会 E-mail: sakurai@yuhgiri.nims.go.jp	22・2
5/26-29	第45回真空技術基礎講習会	大阪府立産業技術総合 研究所	日本真空協会関西支部・(株)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部 E-mail: yamanaka@tri.pref.osaka.jp	22・2
7/26-7/31	高圧力科学と技術に関する国際会議 (AIRAPT-22 & HPCJ-50)	国際交流会館	高圧力科学と技術に関する国際会議組織委員会・日本高圧力学会 E-mail: airapt22@prime-intl.co.jp	22・1
9/16-18	日本セラミックス協会秋季シンポジウム特定セッション「無機物質のマルチスケール構造解析」	愛媛大学 城北地区	日本セラミックス協会 E-mail: yoshiasa@sci.kumamoto-u.ac.jp	22・2
11/25-26	第48回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」	神戸大学 瀧川記念学 術交流会館	(株)日本表面科学会 E-mail: shomu@sss.org	22・2

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

■第3回講習会「X線反射率による薄膜・多層膜の解析」

X線反射率法は、薄膜・多層膜の深さ方向の内部構造、具体的には、各層の膜厚、密度、各界面のラフネス等を非破壊的に求めることができる解析技術です。本講習会では、X線反射率法の経験豊富な専門家を講師陣に迎え、基礎から丁寧に解説を行うとともに、シミュレーションやデータ解析の実習を少人数のグループ(A 経験者コース、B 解析体験コース、C 初学者コース)にて、きめ細かく行ないます。休憩時間には「X線反射率相談デスク」を設け、日頃の疑問に思っていること、質問したくてもなかなかできなかったことに、7名の専門家がお答えします。

主 催: (株)応用物理学会 埋もれた界面のX線・中性子解析研究会

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2009年5月22日(金)

会 場: 物質・材料研究機構 千現地区
〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1
(<http://www.nims.go.jp/>)

教 材:

「X線反射率法入門」(講談社, 本体価格5775円)を参考書として配布するほか(着払い宅急便にて事前送付も可能)、全ての講義に完全対応したレジュメを用意いたします。

参加費:

19,000円(「X線反射率法入門」をお持ちの方は14,000円)

定 員: 40名(定員になり次第、締め切ります)

申込先:

カリキュラムをご覧の上、氏名(ふりがな)、所属、住所、TEL、FAX、e-mail、応用分野(「半導体・磁性体薄膜」または

「有機薄膜」と実習コース(A, B, C)のご希望をご連絡下さい。折り返し受付の連絡と請求書の郵送をいたしますので、指定銀行に入金をお願いします。入金完了をもって、参加申込み完了となります。領収書は講習会当日に手渡しになります。なお、いったん申し込まれた後は、いかなる理由であっても返金には応じかねますので、あらかじめご了承ください。

問合せ先:

〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1
物質・材料研究機構 桜井健次
(TEL 029-859-2821, FAX 029-859-2801,
sakurai@yuhgiri.nims.go.jp)

その他:

カリキュラム、実習コースの詳細は、下記URLをご覧ください。

<http://www.nims.go.jp/xray/ref/TutorialXRR2009.htm>

■第45回真空技術基礎講習会

主 催: 日本真空協会関西支部・(株)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2009年5月26日(火)~29日(金) 9:30-17:50

場 所: 大阪府立産業技術総合研究所
(大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1)

参加費: 主催団体会員52,000円, 協賛団体会員55,000円, 一般60,000円

定 員: 60名

締切日: 2009年5月11日(月)

連絡先：

大阪府立産業技術総合研究所内 (株)大阪府技術協会
担当：山中
〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1
TEL：0725-53-2329 FAX：0725-53-2332
E-mail：yamanaka@tri.pref.osaka.jp

■日本セラミックス協会秋季シンポジウム特定セッション「無機物質のマルチスケール構造解析」

主催：日本セラミックス協会
協賛：日本放射光学会，他
日時：2009年9月16日～9月18日
会場：愛媛大学 城北地区 (〒790-8577 松山市文京町3番)
発表募集：口頭発表(20分)またはポスター発表

主なトピックス：

構造・物性・理論に関するセラミックス，地球科学，材料科学工学，物理，化学などの諸分野における先進的な研究成果を集結し，新しい展開および連携の促進を企図する．放射光，中性子，回折，分光，散乱等を用いた構造情報，原子振動やイオン伝導などの動的情報，構造と物性の発現機構，未知構造解析を基軸とする新材料開発，MDや第一原理によるシミュレーション

招待講演：入船鉄男(愛媛大学)，伊藤 満(東京工業大学)他
発表申込締切り：5月下旬

発表申し込み方法：上記秋季シンポジウム URL を参照

問い合わせ先：

熊本大学 大学院自然科学研究科 吉朝 朗
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
TEL：096-342-3415 ファックス：096-342-3411
E-mail：yoshiasa@sci.kumamoto-u.ac.jp

■第48回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」

主催：(株)日本表面科学会
協賛：日本放射光学会，他
日時：2009年11月25日(水)～26日(木)
会場：神戸大学 瀧川記念学術交流会館
(神戸市灘区六甲台町 1-1)

受講料：協賛学会会員25,000円，学生3,000円/定員100名

申込締切：2009年11月20日(金)

URL：http://www.sssj.org/KisoKouza/kiso48.html

連絡先：

(株)日本表面科学会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-13 本郷コーポレーション402
TEL：03-3812-0266 FAX：03-3812-2897
E-mail：shomu@sssj.org

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内

編集委員長 櫻井吉晴
渉外幹事 繁政英治

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID：jsr222

Password：K7dCt2an

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、学会誌「放射光」のオンライン閲覧をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等御座いましたら、繁政 (sigemasa@ims.ac.jp) までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、櫻井 (sakurai@spring8.or.jp) までお願いします。